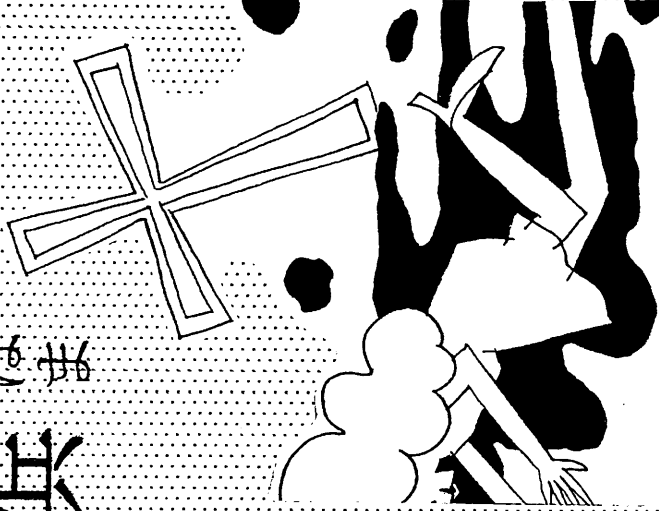


JGR  
レベル B

月刊誌

横浜

ニクスコー



原作：ヘレン・ルツタス

翻訳：原田照子

挿絵：国府田晶子

よこはま  
横浜ミステリー

げんさく  
原作 ヘレン・ブルック

ほんあん  
翻案 原田照子

さしえ  
挿絵 国府田 昂子

とうじょうしんぶつ  
登場人物 : きんだじろう よこはまけいさつ しごと てつだ  
銀田二郎 (横浜警察の仕事を手伝っている)、

はしもと よこはまけいさつ けいぶ ゆき わか  
橋本 (横浜警察の警部)、由紀 (若いきれいな女の人)、

さなえ ゆき ともだち げん ふね ひと せんちよう  
早苗 (由紀の友達)、源 (船の人)、船長、

としよ おとこ としよ おんな わか おとこ わか おんな  
年寄りの男、年寄りの女、若い男、若い女

ばしょ  
場所 : よこはま よこはま みなと みやしまる きょうかい きくや わかばちよう さくらとお  
横浜、横浜の港、宮島丸、教会、菊屋、若葉町、桜通り

十一月の終わりの寒い夜。横浜の港の近くの山の上。古い、大きい家。

部屋には明かりがついている。大きいテーブルと大きいいすがある。そのいすにあなたは座っている。あなたの名前は銀田二郎。前は東京の警察で働いていた。警部だった。たくさんの難しい事件の犯人を捕まえた。今は警部ではない。でも、難しい事件があつた時横浜警察の橋本警部の仕事を手伝う。

あなたは窓から横浜の港を見ている。船の明かりがきれいだ。今日は静かな一日だった。あなたは大きいノートに、「静かな一日が終わる。」と書いた。その時、だれかがドアをノックした。

トントン。

あなたは壁の時計を見る。十時半。

「はい。」あなたは答える。

ドアが開く。

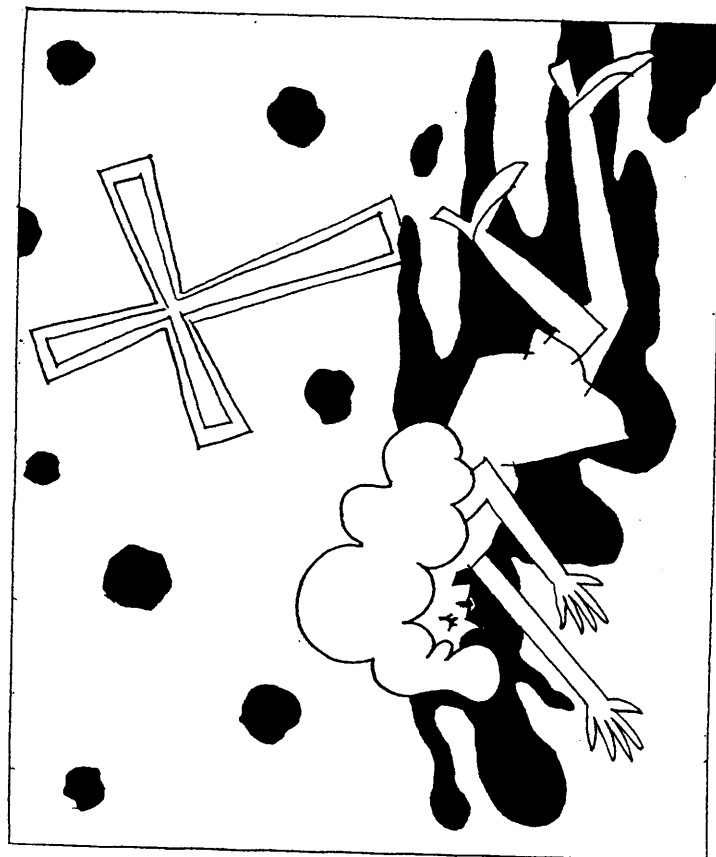
横浜警察の橋本警部が入ってくる。橋本警部はあなたの友達だ。同じ大学で勉強した。

「銀田さん、事件です。私と一緒に港教会に来て下さい。」

あなたは橋本警部の顔を見る。きっと大きい事件だ。

「教会の前の道に女の人が倒れています。血がたくさん出ています。」

まだ、生きています。きっと、また港教会殺人犯です。」



あなたは壁にかかっている上着を取る。

あなたは上着を着る。

◇次は十八へ。

二

あなたは由紀の家にいる。女の人が入ってくる。

「だれ？ここで何をしているの？」その女の人が聞く。

あなたはその女の人に由紀のことを話す。

「ひどい。」

「由紀の友達をだれか知りませんか。」あなたは聞く。

おんな ひと かんが  
女の人<sup>おんな ひと</sup>は考<sup>かんが</sup>える。

「ゆき いちばん ともだち さなえ わかばちよう す  
由紀<sup>ゆき</sup>の一番<sup>いちばん</sup>いい友<sup>ともだち</sup>達は早<sup>さなえ</sup>苗<sup>なえ</sup>よ。若<sup>わか</sup>葉<sup>ば</sup>町<sup>ちよう</sup>に住<sup>す</sup>んでいるわ。由紀<sup>ゆき</sup>は男<sup>おとこ</sup>の友<sup>ともだち</sup>達<sup>たち</sup>もいるわ。」

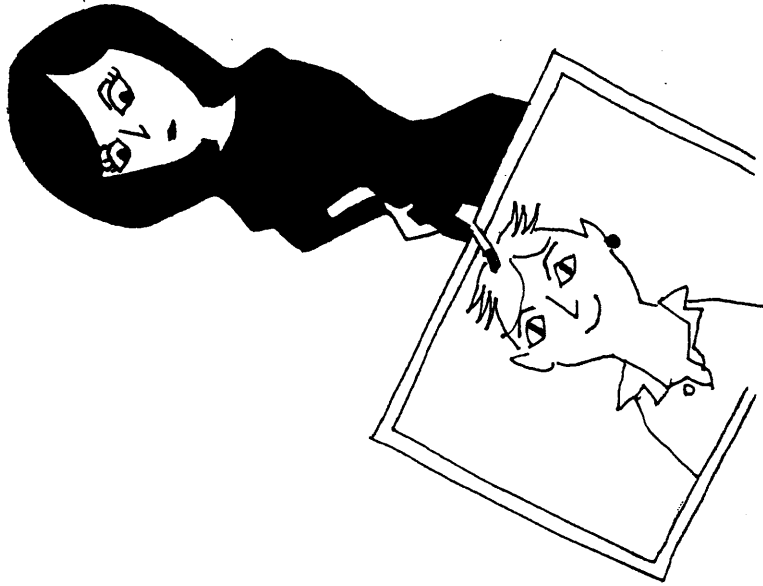
「おとこ ともだち  
男<sup>おとこ</sup>の友<sup>ともだち</sup>達<sup>たち</sup>？」

「ほら、この写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>の人<sup>ひと</sup>。私<sup>わたし</sup>、この人<sup>ひと</sup>嫌<sup>きら</sup>いだわ。」

あな<sup>あな</sup>たは写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>の男<sup>おとこ</sup>を見<sup>み</sup>る。写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>の男<sup>おとこ</sup>はイヤリ<sup>イヤリ</sup>ン<sup>ン</sup>グ<sup>グ</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>。

◇あな<sup>あな</sup>たはま<sup>ま</sup>た<sup>た</sup>菊<sup>きく</sup>屋<sup>や</sup>に行<sup>い</sup>っ<sup>っ</sup>て、他<sup>ほか</sup>の人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>話<sup>はな</sup>す。次<sup>つぎ</sup>は十<sup>じゅう</sup>へ。

◇あな<sup>あな</sup>たは若<sup>わか</sup>葉<sup>ば</sup>町<sup>ちよう</sup>に行<sup>い</sup>っ<sup>っ</sup>て、早<sup>さなえ</sup>苗<sup>なえ</sup>を<sup>を</sup>捜<sup>さが</sup>す。次<sup>つぎ</sup>は三<sup>さん</sup>十<sup>じゅう</sup>五<sup>ご</sup>へ。



三

みやしままる よこはま みなと で  
宮<sup>みや</sup>島<sup>しま</sup>丸<sup>まる</sup>は横<sup>よこ</sup>浜<sup>はま</sup>の港<sup>みなと</sup>を出<sup>で</sup>て行<sup>い</sup>く。

あなたは早く

宮島丸に乗って、

源と話したい。

でも、目の前は海だ。

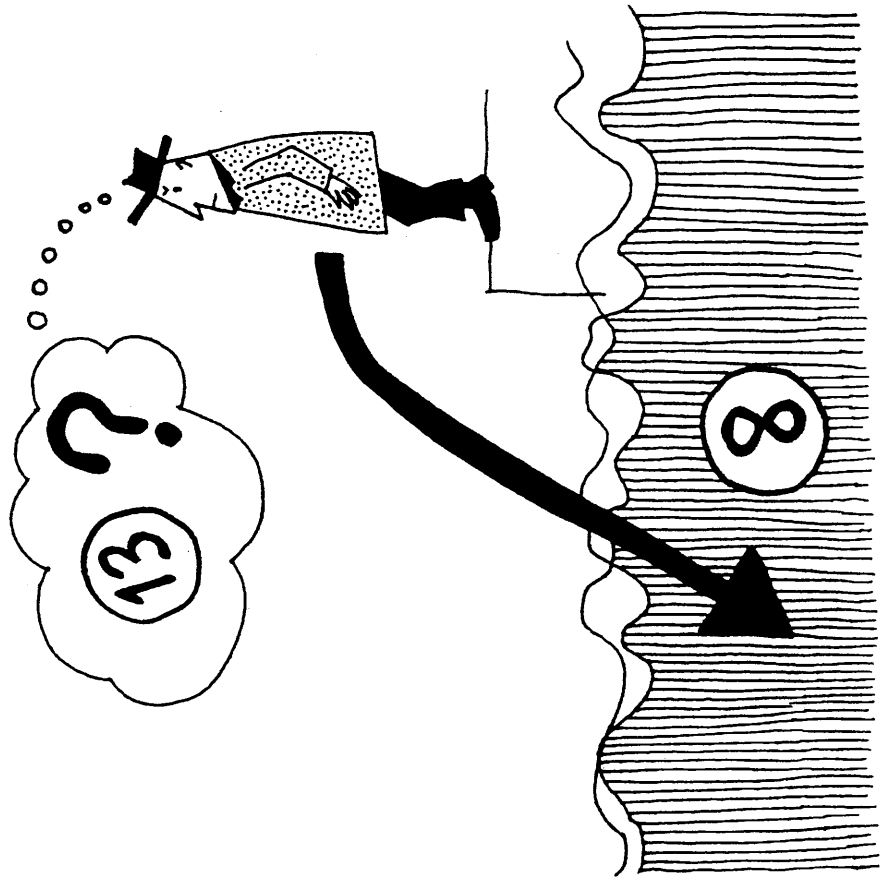
◇あなたは海に入って、

泳ぐ。次は八へ。

◇あなたは泳がない。

あなたは他のやり方で

船に乗ることを考える。次は十三へ。



#### 四

年寄りの男はいすに座って、お酒を飲んでいる。

あなたは年寄りの男のところへ行く。

「道に女の人が倒れています。あの

女の人の名前を知っていますか。」

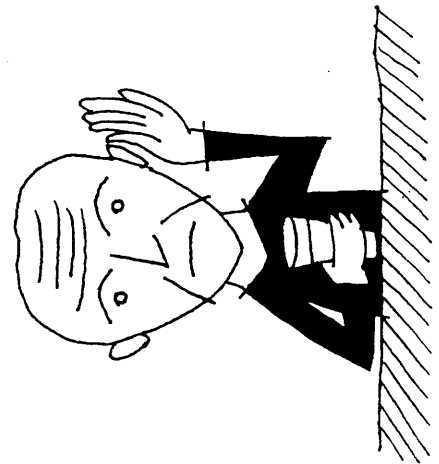
あなたは年寄りの男に聞く。

「……………」

あなたはもう一度聞く。

年寄りの男は答えない。

年寄りの男はあなたの顔を



見る。そして、自分の耳に手をおく。年寄りの男は耳が悪い。だからあなたの声が聞こえない。

◇次は十へ。

## 五

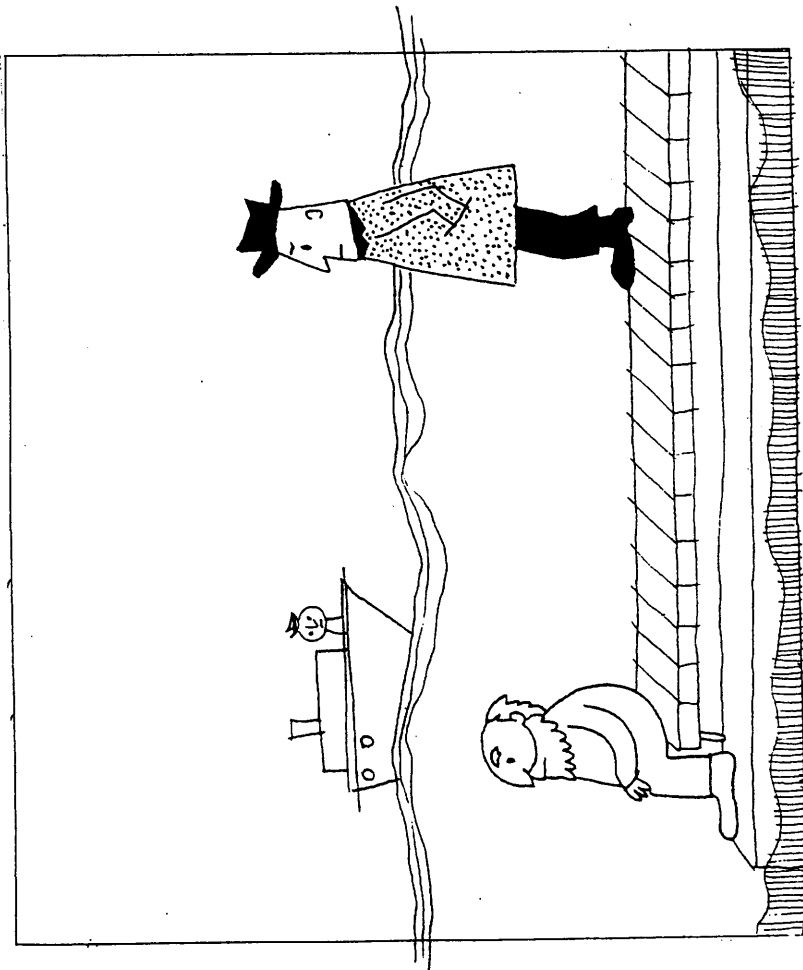
あなたは橋の上を歩いて海の方へ行く。とても寒い。宮島丸は見えない。

小さい船に男がいる。そして、橋の終わりのところに年寄りがいる。

年寄りは海を見ている。

◇あなたは船の男に聞く。次は二十四へ。

◇あなたは年寄りに聞く。次は三十四へ。



六

若い男はドアの近くに立っている。あなたは若い男のところへ行く。そして、若い男に話す。その男は道に出る。そして、倒れている女の人を見る。

「この女の方は、多分、由紀です。かわいそうに。」その若い男は言う。

「この女の人の家を知っていますか。」あなたは若い男に聞く。

「ああ、多分、由紀の家は桜通りです。」

◇あなたはもう一度菊屋へ行って、他の人と話す。次は十へ。

◇あなたは桜通りへ行く。次は三十へ。

七

宮島丸の船長が三人の源を呼ぶ。

三人の源が来る。はじめの源は

背が高い。次の源はめがねを

かけている。最後の源は黒い

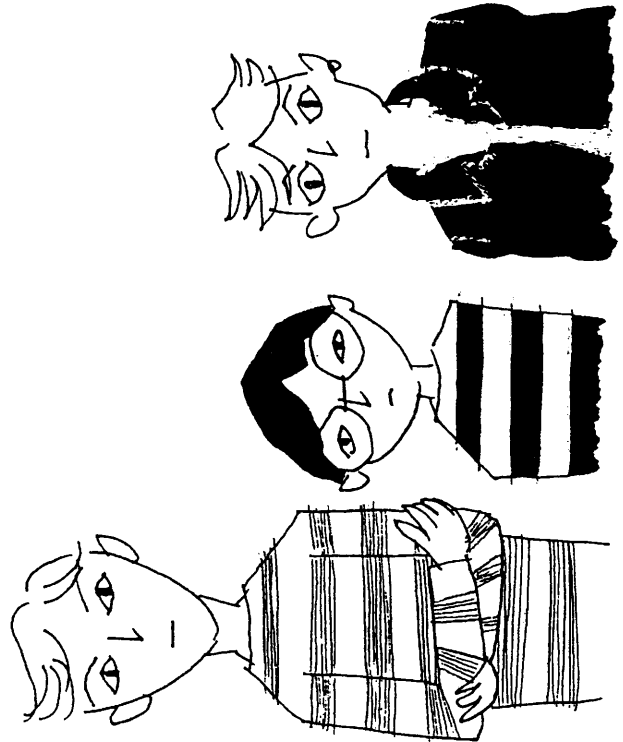
上着を着ている。

あなたはどの源と話したいですか。

◇はじめの源。次は十七へ

◇次の源。次は二十三へ。

◇最後の源。次は三十一へ。



八

あなたは海の中うみなかにいる。

水みづはとても冷つめたい。

あなたは船ふねの方ほうに泳およぐ。

船ふねはとても速はやい。だめだ

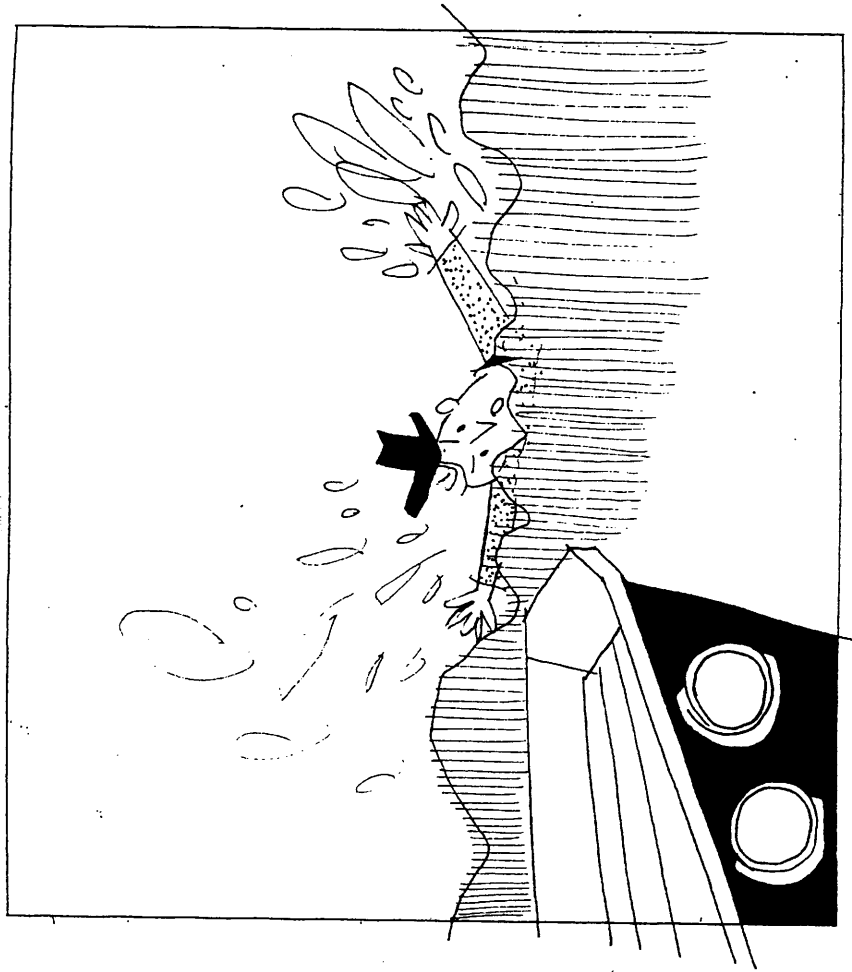
あと五分ごぶんで、宮島丸みやじままるは

横浜よこはまの港みなとの外そとへ出でる。

そしてインドいへ行く。

あなたはとても寒さむい。

◇次つぎは二十二ふたじゅうにへ。



15

九

あなたは、早苗さなえに由紀ゆきの事ことを話はなす。港教会殺人犯みなときょうかいざつじんはんの事ことも話はなす。

「由紀ゆきは、私わたしのとてもいい友達ともだちなの。」早苗さなえは泣ないている。

「由紀ゆきは病院びょういんへ行いきましたか。」早苗さなえは聞きく。

「はい。病院びょういんへ行いきました。きつと大丈夫だいじょうぶです。」あなたは言いう。

「かわいそう」早苗さなえが言いう。早苗さなえは続つづける。

「でも、由紀ゆきは男おとこの友達ともだちがいるわ。」

「男おとこの友達ともだち? それは、だれ?」あなたは聞きく。

「船ふねの人ひとよ。船ふねで働はたらいている人ひと。名前なまえは源げん。源げんはよく桜通さくらどおりの

16

由紀の家にいるわ。源の船は、多分、今、横浜に来ているわ。」

◇あなたは源に会いたい。だから港へ行く。次は十四へ。

◇あなたは由紀のことをもつと知りたい。だから桜通りの由紀の家へ行く。次は十九へ。

十

菊屋は小さい日本料理のレストランだ。店の中は明るくて、きれいだ。

お客さんが四人ぐらいいる。年寄りの男、若い男、年寄りの女、

若い女。あなたは教会の前の道に倒れている女の人のことを聞きたい。

あなたは初めにだれに聞きますか。

◇あなたは年寄りの男に話す。

次は四へ。

◇あなたは若い男に話す。

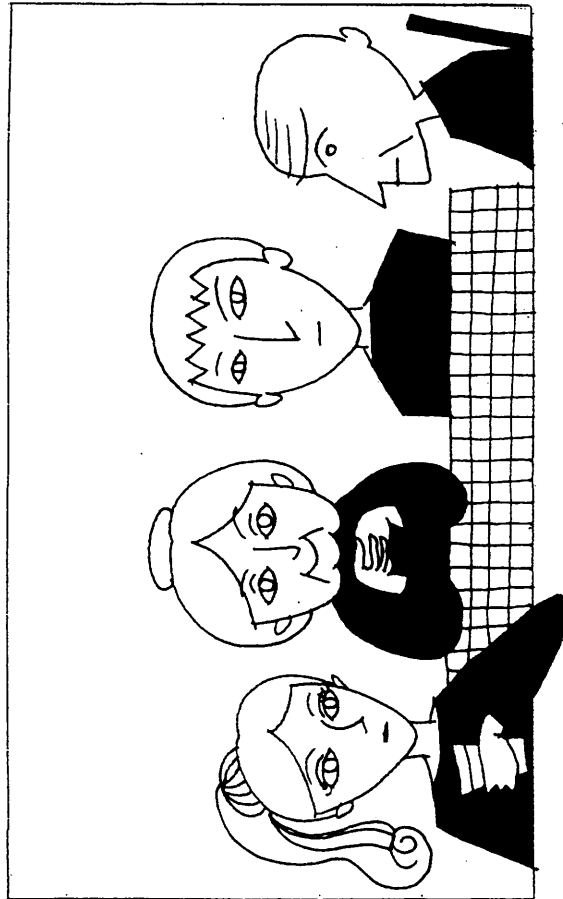
次は六へ。

◇あなたは年寄りの女に話す。

次は十五へ。

◇あなたは若い女に話す。

次は二十八へ。



十一

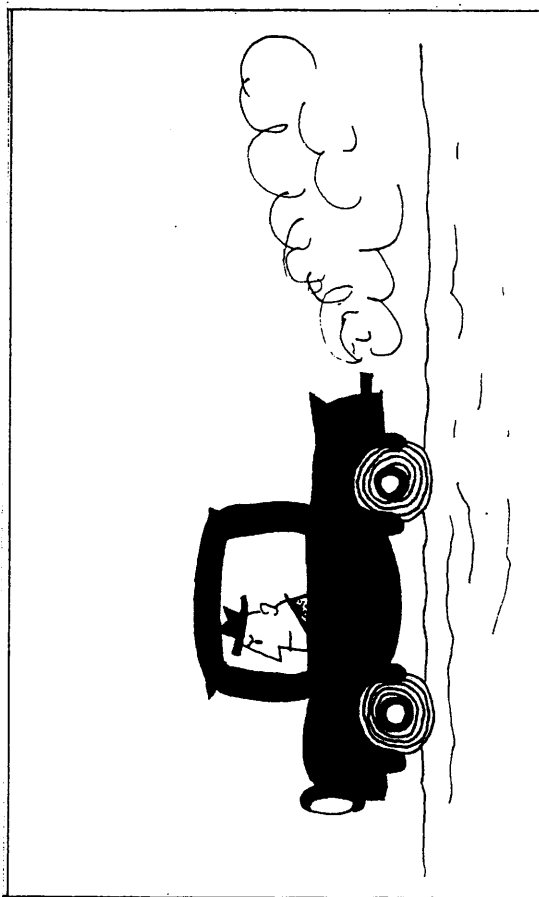
船で働いている男はあなたを見る。

「源？」とその男は言う。「その名前の人は船にたくさん乗っている。この船にもいる。きつと一つの船に、一人源がいるさ。」

あなたは源の船の名前を知らない。

あなたは車に乗る。桜通りの由紀の家へ行く。そして、源の船の名前を探す。

◇次は十九へ。



十二

あなたは横浜の港に来た。横浜の港は大きい。港は風が強くて、

とても寒い。橋が見える。大きい船や小さい船がたくさんある。

あなたは早く宮島丸を見つけない。宮島丸にはきつと源がいる。

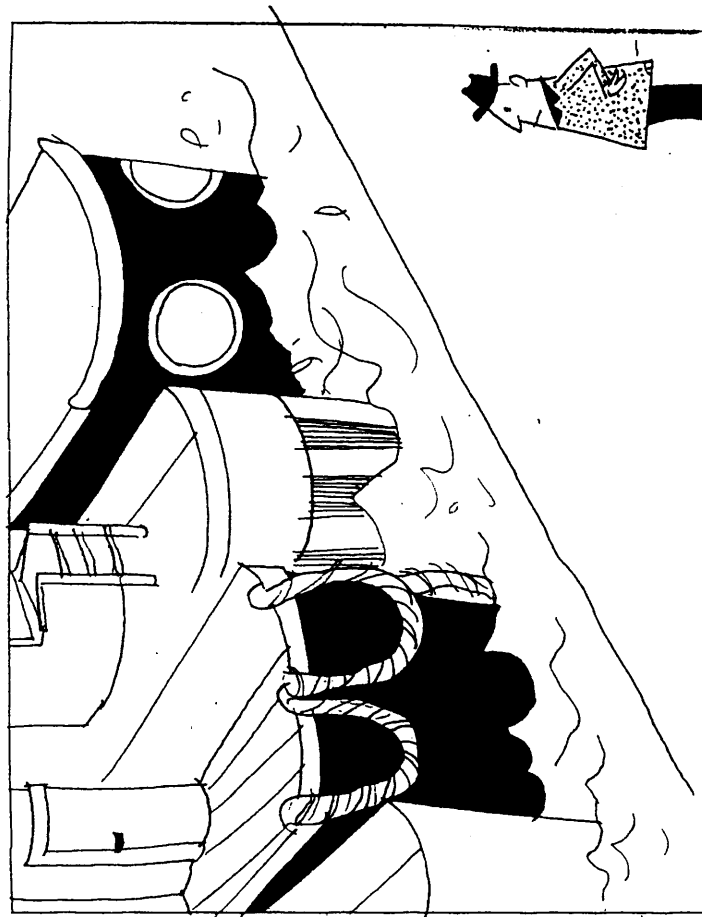
早く源を捕まえたい。

あなたは宮島丸を探す。

◇あなたは橋の上を歩いて海の方へ行く。次は五へ。

◇あなたは右へ行く。次は二十へ。

◇あなたは左へ行く。次は二九へ。



十三

港には橋がある。あなたは橋の上を走る。宮島丸が橋の下に来た。

あなたは橋から宮島丸に跳ぶ。あなたは船長を探す。船長がいた。

「この船にいる男と話したいです。」あなたは言う。

「その男の名前は源です。」

「なぜ会いたいんだ？」船長は聞く。

「多分、源は港教会殺人犯です。」

「この船には三人、源がいる。」船長は言う。

「三人に会いたいです。お願いします。」あなたは頼む。

◇次は七く。

十四

あなたは橋本警部の車で横浜の港へ

行く。そして、由紀の友達の源を探す。

船がたくさんある。船の明かりがきれ

いだ。船で働いている人たちがまだ

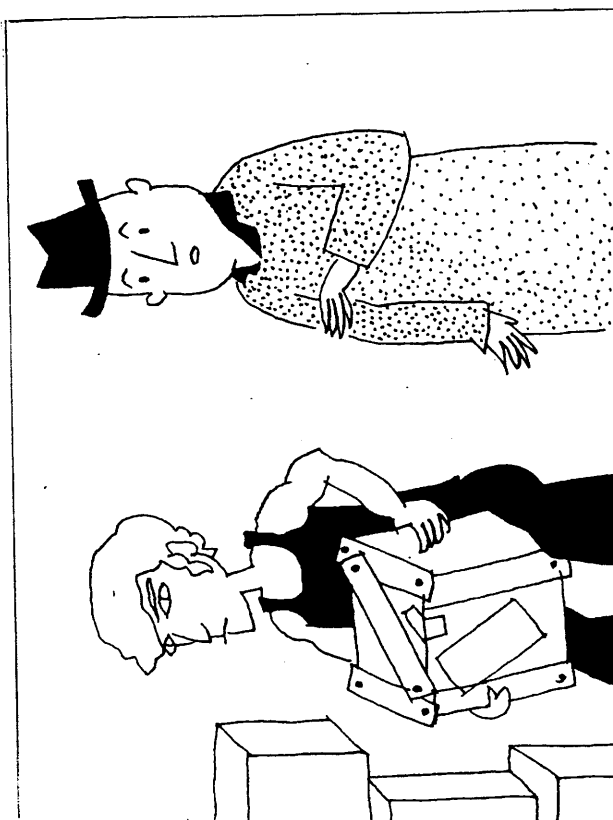
たくさんいる。あなたは車を降りる。

船で働いている一人の男に聞く。

「すみません。源を知っていますか。

源はどこにいますか。」

◇次は十一へ。



十五

年寄りの女は店の中で座っている。あなたは店の中に入る。年寄りの

女のところへ行く。年寄りの女に話す。年寄りの女は立って、外へ出る。

あなたも外へ出る。年寄りの女は、倒れている女の人を見る。

「この人は、由紀よ。かわいそうに。」年寄りの女は言う。

「この人の家を知っていますか。」あなたは聞く。

「はい。桜通りに住んでいますよ。」

「桜通りのどこですか。わかりますか。」あなたは聞く。

「それは分からないわ。でも、由紀は本当にかわいそう。」

◇あなたはもう一度菊屋へ行って、他の人と話す。次は十へ。

◇あなたは桜通りへ行く。次は三十へ。

一六

あなたは白いドアをノックする。トントン。若い女の人<sup>わか おんな ひと</sup>がドアを開ける。

その若い女<sup>わか おんな ひと</sup>の人は青い服<sup>あお ぶく き</sup>を着ている。

「早苗<sup>さなえ</sup>さんですか。」あなたは聞く。

「はい。」

「あなたは由紀<sup>ゆき</sup>さんの友達<sup>ともだち</sup>ですか。」

「はい。友達<sup>ともだち</sup>です。」早苗<sup>さなえ</sup>は答<sup>こた</sup>える。

「悪いニュース<sup>わる</sup>です。」あなたは言う。

「えっ。由紀<sup>ゆき</sup>が何か<sup>なに</sup>。」

「だれかが由紀<sup>ゆき</sup>さんを

ナイフ<sup>き</sup>で切りました。

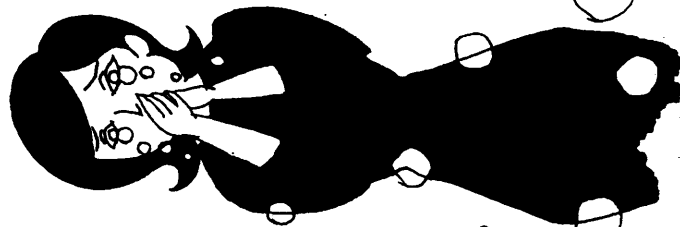
多分<sup>たぶん</sup>、港教会<sup>みなときょうかい</sup>殺人犯<sup>ざつじんはん</sup>です。

由紀<sup>ゆき</sup>さんは生きています。

でも、血<sup>ち</sup>がとてたたくさん出<sup>で</sup>ました。」

「どうして…」早苗<sup>さなえ</sup>は泣<sup>な</sup>き出<sup>だ</sup>す。

◇次<sup>つぎ</sup>は九へ。



十七

あなたは、はじめの背が高い源に話す。

「由紀を知っていますか。」

「知らない。」

「今日、どこにいましたか。」

「ずっと、宮島丸で働いていたよ。」

その男は港教会殺人犯ではなかった。

◇次は七へ。



27

十八

港教会は横浜の港の近くにある古い教会だ。日曜日の朝、

教会の前を通ると、きれいな音楽が聞こえる。

去年の十一月の寒い夜に、この教会で大変なことがあった。若いきれいな

女の人が死んだ。だれかがナイフでその女の人を切った。その若いきれいな

女の人は教会の階段で死んでいた。血がたくさん出ていた。そして、

三月にも、六月にも、八月にも、教会の近くで若いきれいな女の人が死

んだ。新聞には「港教会殺人事件」というニュースが出た。

港教会殺人犯はナイフで若い女の人を切る。

28

警察は港教会殺人犯を早く捕まえたかった。一生懸命捜した。でも、  
捕まえることができない。はじめの事件から、もう、一年になる。四人の女  
の人が死んだ。そして、今日また？

あなたは橋本警部の車に乗った。車はとても速かった。港教会の前で  
車を降りた。教会の前で警察の人たちがあなたを待っていた。

「銀田さん、ここにきて下さい。」

教会の近くに菊屋という店がある。店には明かりがついている。店の前に  
警察の人がいる。店の人とお客さんもいる。教会の前の道に、女の人

が倒れている。若いきれいな女の人だ。血がたくさん出ている。

死んでいる？ いや、生きている。でも、話すことができない。

あなたは女の人が倒れている道を見る。

道に線が二本ある。この線は、自転車のタイヤだ。港教会殺人犯は

自転車に乗っていた？

◇あなたは道の二本のタイヤの線について行く。次は二十五へ。

◇あなたは菊屋の中に入る。あなたはその店の中にいる人と話したい。

次は十へ。

あなたは由紀の家に入る。明かりをつける。テーブルの上にきれいな花がある。その前に手紙がある。あなたはその手紙を読む。

由紀  
私の船はすぐインドへ行きま  
す。30日の夜9時に、横浜  
教会の前で会って下さい。  
大切なことを話します。  
11月29日  
宮島丸  
源

源が由紀を切ったのか。源が港教会殺人犯なのか。あなたは横浜の港

へ行って、宮島丸の源を捜す。

◇次は十二へ。

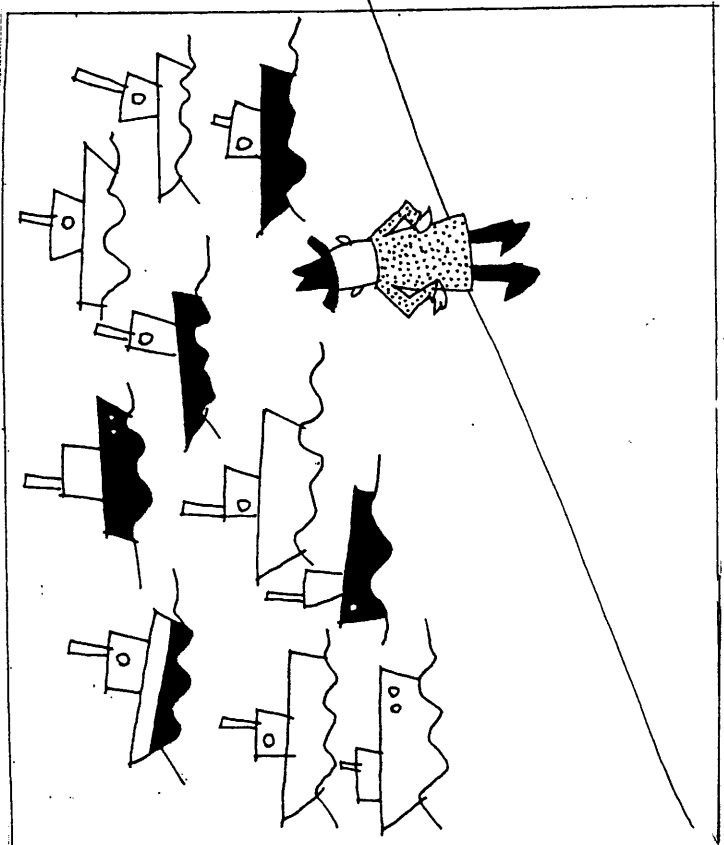
あなたは右の方へ行く。

船がたくさんある。

あなたは船の名前を読む。

宮島丸はない。

◇もう一度十二へ。



二十一

あなたは青いドアをノックする。  
トントン。

年寄りがドアを開ける。

「早苗さんを探しています。」

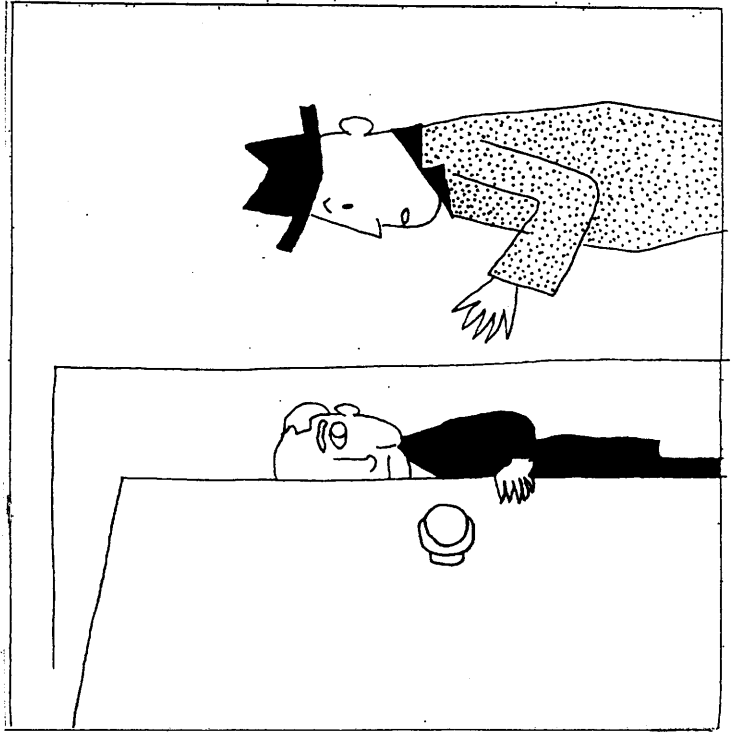
あなたは言う。

「早苗さんはこの家にはいな

いよ。」その年寄りと言う。

「多分、白い家に住んでいるよ。」

◇次は一六へ。



二十二

港教会殺人犯は

逃げた。

では、もう一度

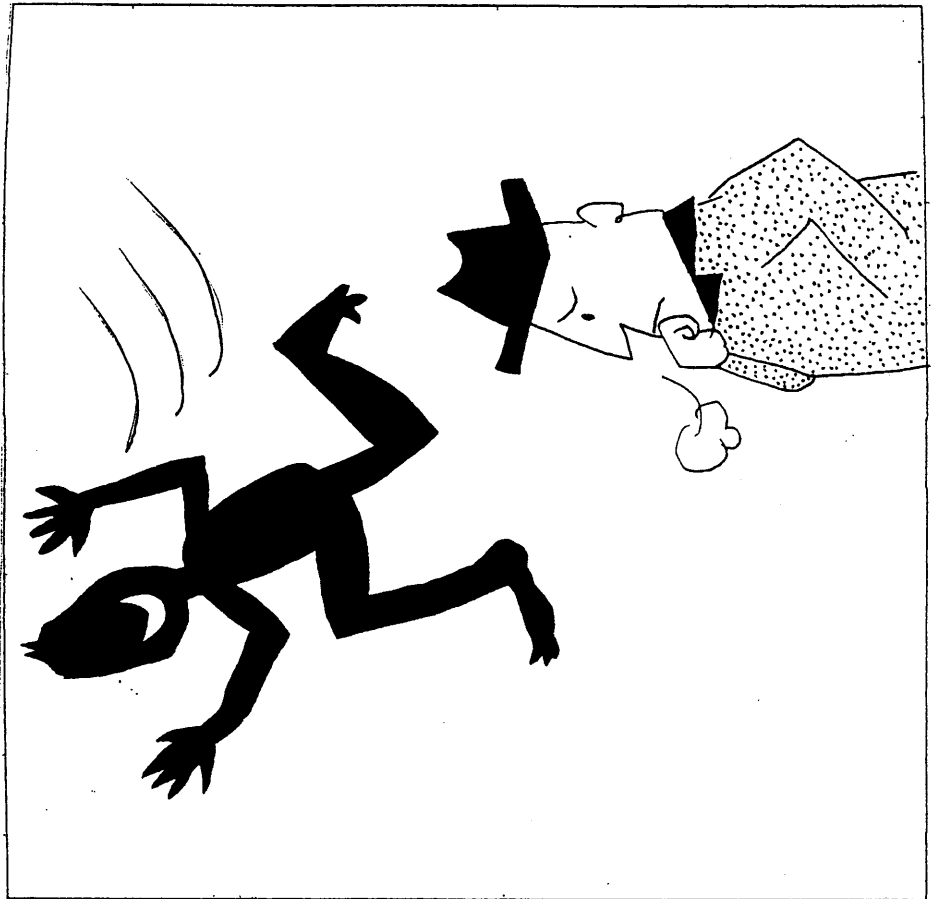
初めから。

今度はもつと、

上手に捜して、

捕まえて下さい。

◇もう一度二へ。



二十三

あなたは、次の、めがねをかけている源に話す。

「由紀を知っていますか。」

「知らないねえ。」

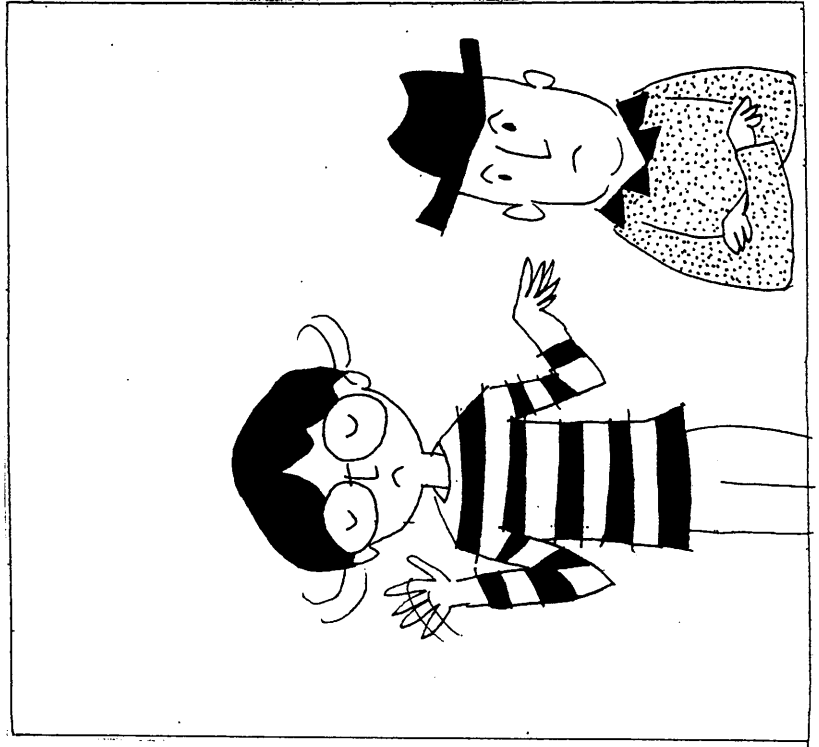
「今日の夜九時ごろ、

何をしていましたか。」

「船長と話していたよ。」

あなたは船長の顔を見る。

船長は言う。



「この源は今日の夜ずっと私と一緒にいました。仕事のことを話していました。」

その男は港教会殺人犯ではなかった。

◇次は七へ。

二十四

あなたは船の男に話す。

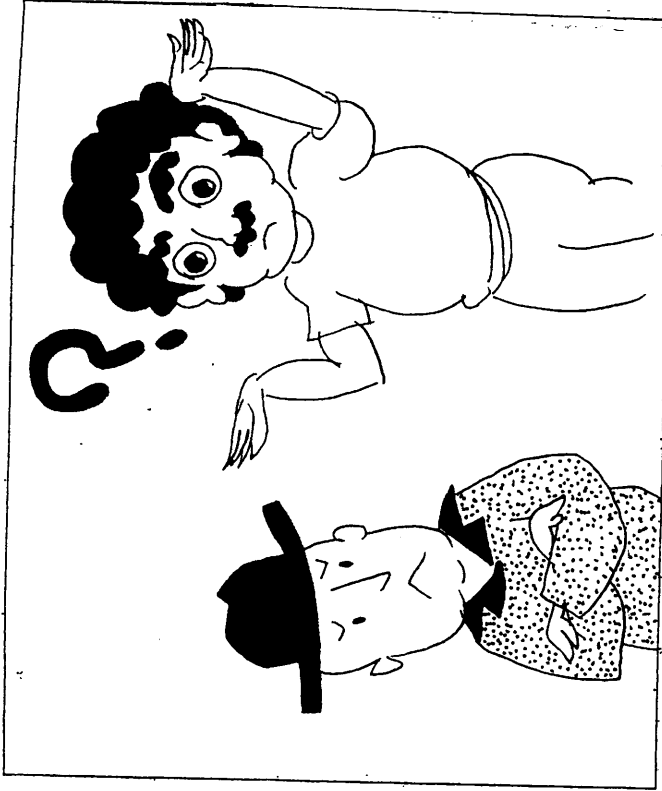
「こんばんは、宮島丸を知っていますか。」

船の男はあなたを見る。

「私はインドから来ました。」その男は言う。

「私は、日本語は分かりません。」

◇次は五へ。



二十五

あなたは自転車のタイヤの線  
 を見る。タイヤの線は大きい  
 道まである。あなたはタイヤ  
 の線について、大きい道まで  
 行く。そこで終わりだ。もう  
 タイヤの線は分からない。あ  
 なたは右の方を見る。自転車  
 は見えない。左の方を見る。

自転車は見えない。

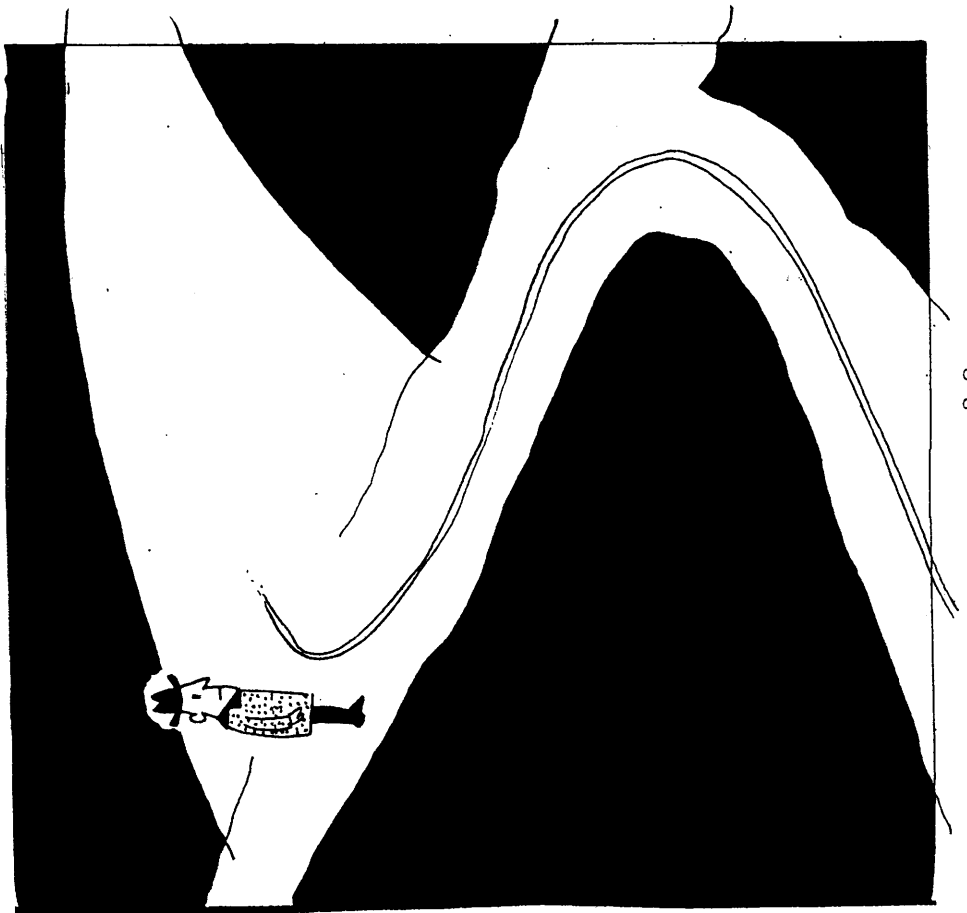
港教会殺人犯は

どちらへ逃げたの  
 だろう。あなたは

もう一度事件の

場所へ行く。

◇次は十八へ。



二十六

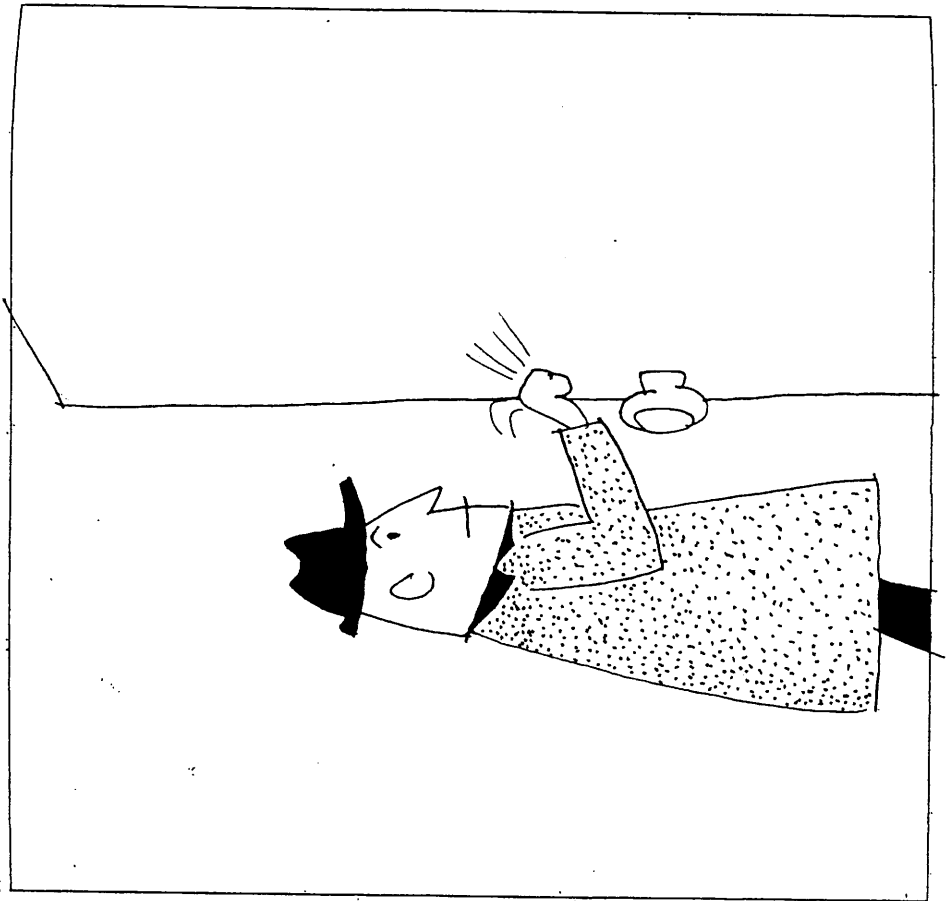
あなたは赤いドアを

ノックする。

トントン。

だれもない。

◇次は三五へ。



39

二十七

「上着の中にある物を見せて下さい。」

男は黒い上着の中から

何か出した。ナイフだ。

血が付いている。この男

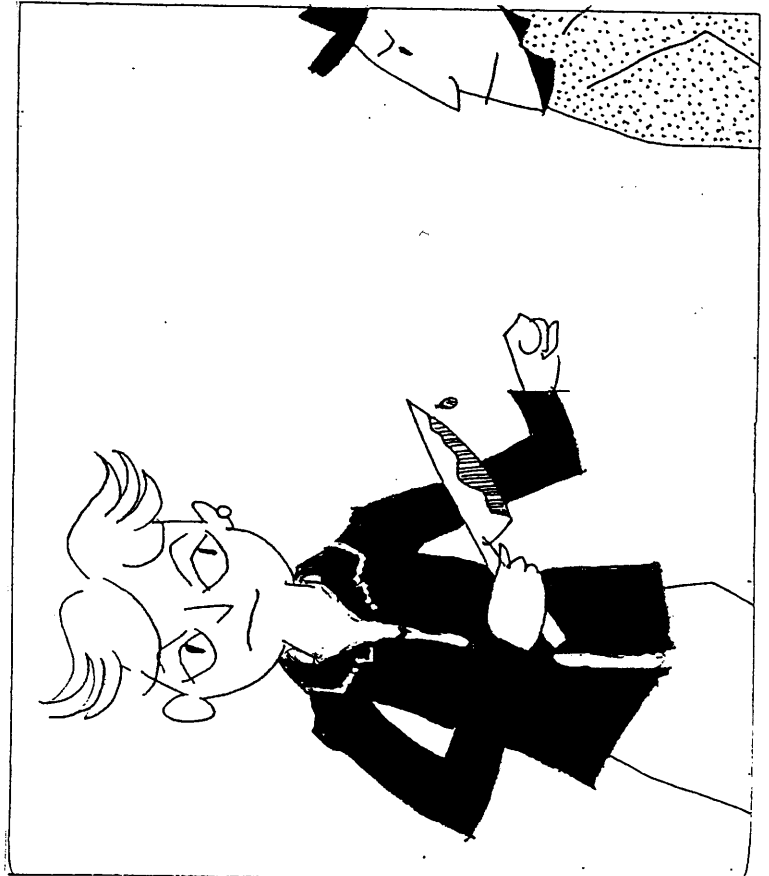
が港教会殺人犯だ。

男は右手にナイフを持

った。そして、あなたの

方に来た。危ない！

あなたは右に動く。



40

◇次は三十三へ。

## 二十八

若い女は若い男と話している。あなたは若い女のところへ行く。

「あの女の人の名前を知っていますか。」あなたは聞く。その若い女は道に出る。そして、倒れている女の人を見る。

「私はこの女の人の名前を知りません。でも、早苗はこの女の人の友達です。早苗に聞いて下さい。」

「早苗さんはどこに住んでいますか。」あなたは聞く。

「早苗は若葉町に住んでいます。」

◇あなたは、もう一度菊屋に行つて、他の人に話す。次は十へ。

◇あなたは、若葉町へ行つて、早苗に会う。次は三十五へ。

## 二十九

あなたは左の方へ行く。船が見える。その船には「宮島丸」と書いてある。

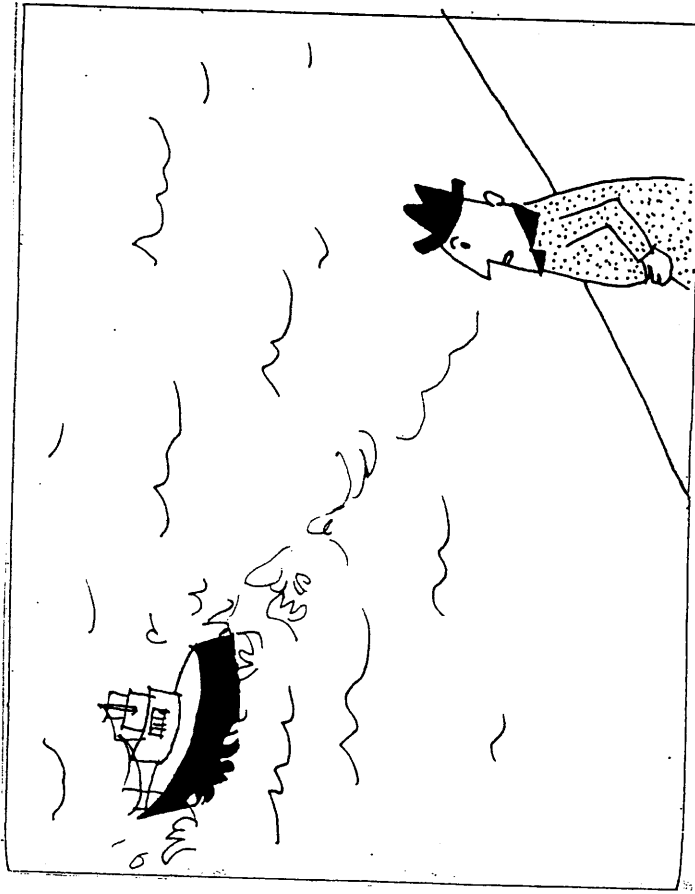
でも、宮島丸は港にとまっていない。宮島丸はゆつくり動いている。

宮島丸は今、港を出て行く。

◇あなたは船に乗りたい。次は三へ。

◇あなたは病院へ行つて、由紀に源のことを聞く。それから、インドの警察に手

紙を書いて、源のことを頼む。次は二十二へ。



三十

あなたは桜通りへ行って、

その人たちに聞く。

「由紀の家はどこですか。」

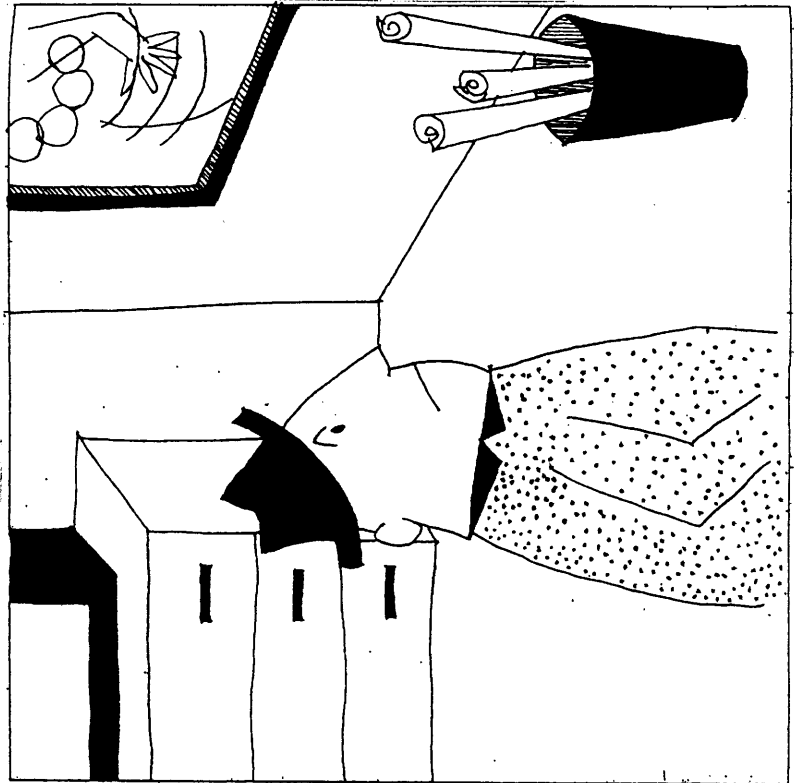
あなたは由紀の家を見つけ

る。家の中に入る。明かり

をつけて、家の中のものを

一つ一つよく見る。

◇次は二へ。



三十一

あなたは最後の、黒い上着の源に話す。

「由紀を知っていますか。」あなた

は聞く。

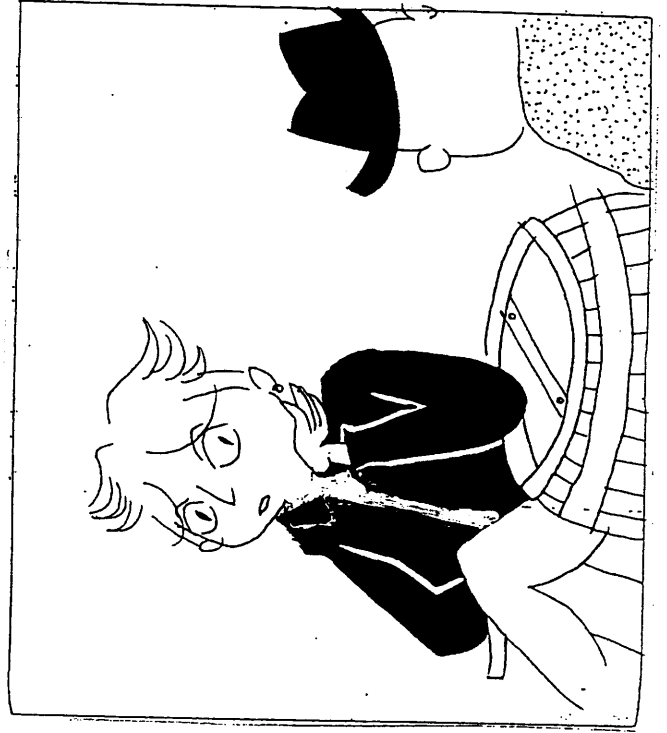
「由紀？ 私は、知らない。」源は言う

この源はイヤリングをしている。

由紀の家の写真の男だ。

男の上着の中に何かある。

◇次は二十七へ。



45

三十二

あなたは橋本警部の車で港の近くの山の上の古い大きい家へ帰る。

「銀田さん、本当にどうもありがとうございました。」

「いや、橋本さん、大変な夜でした。でも、港教会殺人犯が捕まって、

本当によかったです。」

「じゃ、これで、失礼します。」

「気をつけて。」

橋本警部は車で山を下りて行く。

あなたは部屋に入る。明かりをつける。上着を壁にかける。

46

おお  
 大きいすに座る。テーブルの  
 え  
 上のノートには「静かな一日が終  
 わる」と書いてある。あなたは  
 それを消す。そして、  
 「みなときようかいざつじんはん  
 港教会殺人犯を捕まえた。」  
 と書く。壁の時計を見る。二時だ  
 った。窓からは港の船の明かり  
 が見える。横浜の町は静かだ。



三十三

せんちよう  
 船長が黒い上着の男の前に立つ。あなたは男の手からナイフをとる。  
 そして、男を捕まえる。黒い上着の男は港教会殺人犯だった。小  
 さい船が宮島丸のそばに来た。警察の船だ。あなたは港教会殺人犯  
 と一緒に警察の船に乗る。そして横浜の港へ行く。港には橋本警部が  
 いる。他の警察の人たちもいる。あなたは橋本警部と警察の人たちに言う。  
 「この男の名前は源です。港教会殺人犯です。」  
 げん  
 源の顔はとても怖い。源は逃げたい。でも、無理だ。あなたは橋本警部に  
 みなときようかいざつじんはん  
 港教会殺人犯を渡す。橋本警部は港教会殺人犯を警察の車の中に

入れた。

◇次は三十二く。

三十四

年寄りが海を見ている。

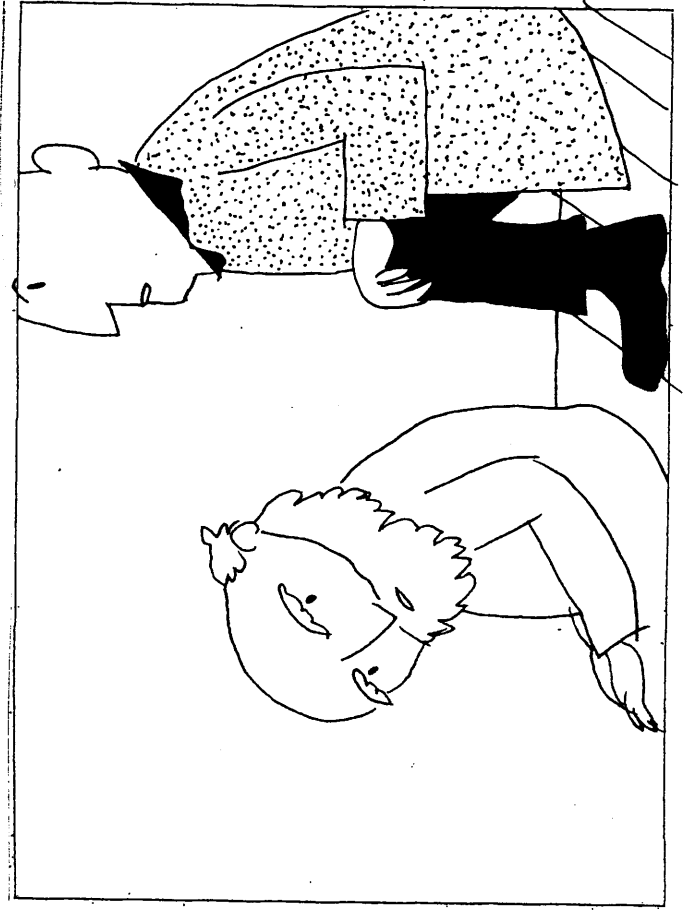
あなたは年寄りに話す。

「こんばんは。」

年寄りはおあなたを見る。

あなたは聞く。

「官島丸を知っていますか。」



「はい。官島丸は横浜の港に

とまっています。すぐインドへ行きます。」

あなたは早く横浜の港を捜さなくてははいけない。

◇次は十二く。

三十五

あなたは橋本警部の車を使う。

由紀の友達のお早苗は若葉町にすんでいる。若葉町は港教会の南の方だ。

あなたは、橋本警部の車で若葉町へ行く。あなたはお早苗の家を探す。

白いドアの家がある。その隣に青いドアの家がある。

その隣に赤いドアの家がある。

早苗の家はどれだろう。

あなたは初めにどの家のドアをノックしますか。

◇ 白いドアの家。次は十六へ。

◇ 青いドアの家。次は二十一へ。

◇ 赤いドアの家。次は二十六へ。

『横浜ミステリー』は Oxford University Press の許可を得て、Helen Brooke 作 *Mystery in London* (Oxford Bookworms Starters 250 headwords) を日本語版グレイデイド・リーダー用に翻案したものです。

この日本語版グレイデイド・リーダーは JGR プロジェクトグループが開発した試作品です。販売を目的としたものではありません。

© 2003 by JGR プロジェクトグループ